



京都迎賓館見学

今年の6月5日(月)に滋賀在住の友人の計らいで京都迎賓館のガイドツアー方式の参観ができましたので、その見所などご紹介したいと思います。



京都迎賓館は、京都に平安京ができて1200年になるのを記念し、平成17年4月に開館しました。京都御所の中にあります。

日本建築の長い伝統の粋と美しさを現代の建築技術と融合させる「現代和風」の創造を目指して設計されたと紹介されています。

数寄屋大工や蒔絵など伝統的技能を多用し、建物で日本庭園を取り囲むように設計されているのが特徴です。

一般公開は自由参観方式とツアー方式でインターネット事前予約および当日受付があります。

・ガイドツアー方式(60分程度)

当日11時頃から先着順で、ガイドツアー開始時間を指定した当日整理券を京都迎賓館西門にて1人4枚まで配布されます。

定員:300名

当日受付による入場は11:45より開始予定です。

ガイド開始の30分前までに西門を通過する必要があります。

参観料金:大人1,500円、中高生700円

ツアーの無い日もあり、内閣府のホームページでご確認ください。

・西門までの長い道のりから、たどり着くと整理券を渡してくれます。



・ガイドツアー開始、この後靴をスリッパに履き替えて館内に入ります。



・屋根と樋は最新技術で加工されたチタン合金製、写真は正面玄関。



・玄関扉は樹齢700年の樺(けやき)の1枚板、軒天は無垢の杉板。



・中に入ると養生のカーペット上のみ歩けます、全ての物に触れません。天井材、柱、床すべて国内でとれる最高の材です。



・「夕映えの間」の間接照明、光源は枠から上方を照らしています。



・「藤の間」の天井照明、パナの特注品で電動で下がってきます。



・「藤の間」の[きりがね]人間国宝 故江里佐代子の截金が施されています。純金箔やプラチナ箔を精工に貼って魅了されました。



・「藤の間」の襖を引き込むため8本も溝のある巨大な鴨居。



・「桐の間」の欄間、ここにも[きりがね]が施されています。



・「桐の間」のうるしの座卓、背中の柄はすべて微妙に異なっています。



・食事はメンバーの後輩の経営する「がんこ高瀬川二条苑」で美味しくいただきました。



・中庭の池には稲穂をモチーフにして水田を表現しています。



■ 感想

贅を尽くした近代和風建築ですが、その中には日本伝統工芸の質の高さを目に見れて感動する場面が多くありました。

ただ、全てのものに触れる事が出来ないのと、養生カーペットから少しでも出ると、係の方が厳しく「ここから出ないでください」と注意されます。

また、先日テレビで放映していたガーナ大統領の訪問時は、皆さん土足で上がっていましたのでビックリしました。基本は土足仕様なのですね。

いずれにしても、このようなすごい施設を近くで見学できるので、皆さんもぜひ参加されたいと思います。

・下の船に海外からのゲストを載せて船遊びを体験させるそうです。

